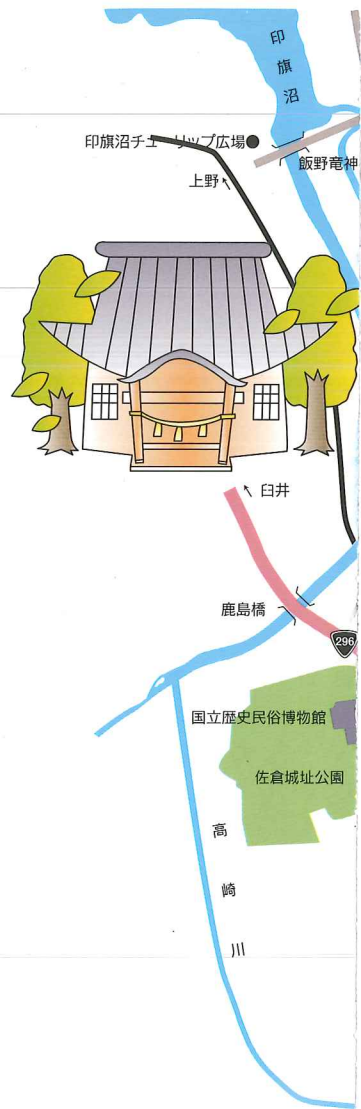
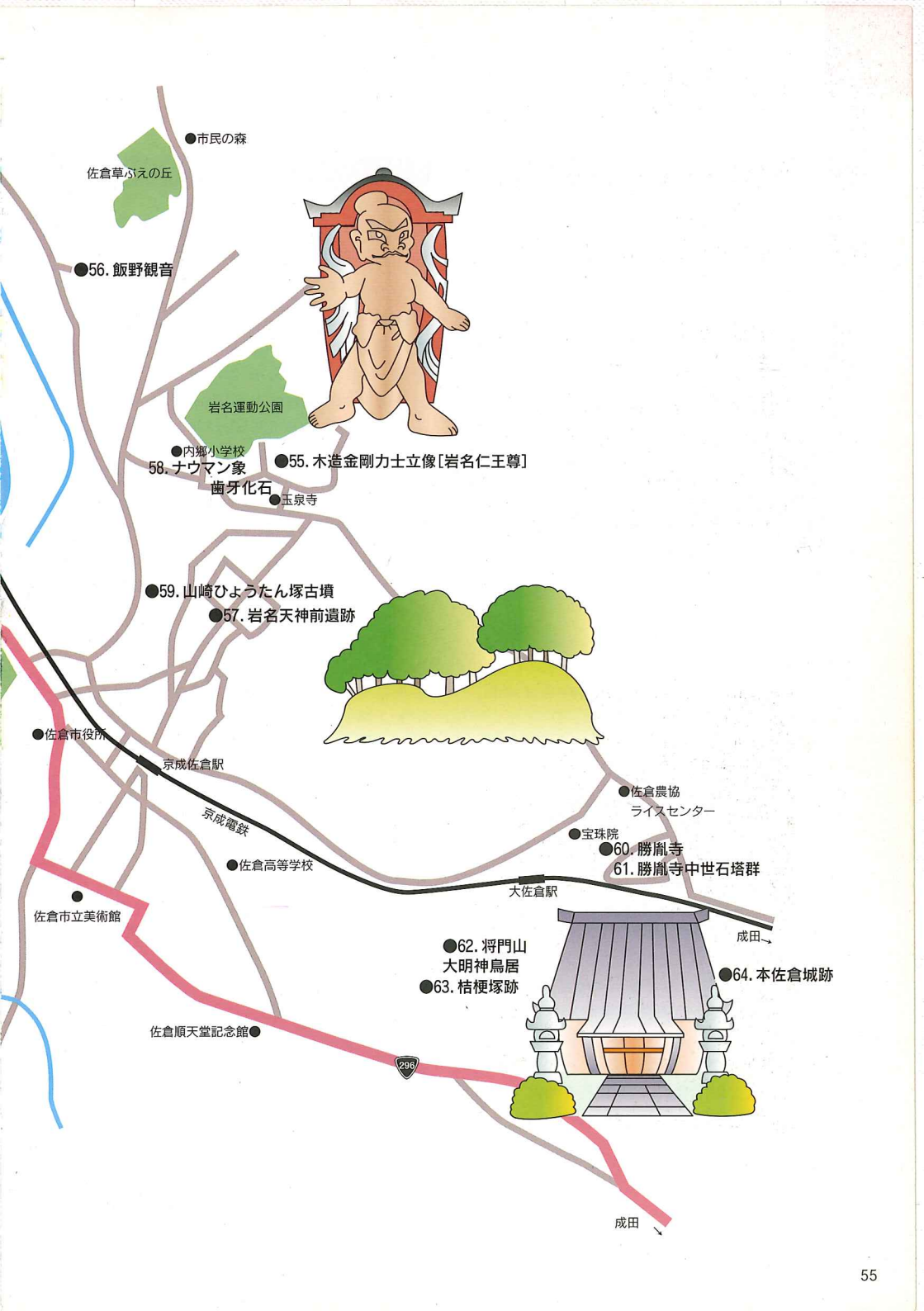


【佐倉地区】 C

- 55. 木造金剛力士立像(岩名)……………56
- 56. 飯野観音(飯野)……………56
- 57. 岩名天神前遺跡(岩名)……………57
- 58. ナウマン象歯牙化石(岩名)……………57
- 59. 山崎ひょうたん塚古墳(山崎)……………58
- 60. 勝胤寺(大佐倉)……………58
- 61. 勝胤寺中世石塔群(大佐倉)……………59
- 62. 将門山大明神鳥居(大佐倉)……………59
- 63. 桔梗塚跡(将門町)……………60
- 64. 本佐倉城跡(大佐倉・酒々井町本佐倉)…60





●市民の森

佐倉草ぶえの丘

●56. 飯野観音

岩名運動公園

●内郷小学校

58. ナウマン象

歯牙化石

●55. 木造金剛力士立像[岩名仁王尊]

●玉泉寺

●59. 山崎ひょうたん塚古墳

●57. 岩名天神前遺跡

●佐倉市役所

京成佐倉駅

京成電鉄

●佐倉高等学校

佐倉市立美術館

佐倉順天堂記念館●

●佐倉農協

ライスセンター

●宝珠院

●60. 勝胤寺

61. 勝胤寺中世石塔群

大佐倉駅

成田

●62. 将門山

大明神鳥居

●63. 桔梗塚跡

●64. 本佐倉城跡

286

成田



55

もくぞうこんごうりきしりゅうぞう 木造金剛力士立像



いわな しんごん ぶざん はぎょくせんじ ひしゃもんどう
岩名にある真言宗豊山派玉泉寺の毘沙門堂
仁王門の木造金剛力士立像は、「岩名の仁王
様」として親しまれています。玉泉寺は鑄木
町の大聖院の末寺でした。

みんぬ おきょう
忿怒の相を表わす二体の像のうち、向かっ
て右の阿形像（口を開けた像）は1.88m、左
の吽形像（口を閉じた像）は1.89mと堂々た
る仏像で、ともに樫材の一木造りです。

製作年代については、像の体内に明応6年
(1497)、かんえい 7年 (1630)、げんぶん 2年 (1737)
に修理されたことが記されていることと、様
式の特徴から室町時代初期の作と考えられま
す。

この金剛力士立像の由来は、明応年間 (1492
～1501) に鹿島川を流れて岩名の川岸に漂着
し、近郷の人々が引き上げようと試みたが重
くて持ち上がらず、ただ岩名の人々だけが
軽々と運ぶことができたため岩名の地に安置
されることになったと伝えられています。



56

いいのかんのん 飯野観音

飯野にある飯野山東徳寺は、延命地蔵を本
尊とする真言宗豊山派の寺院で、「飯野の観
音様」の名で知られています。宝暦10年
(1760) の銘のある百段近い石段を上りつめ
ると、眼下には水田が広がり、西方には印旛
沼が眺望できます。

『古今佐倉真佐子』には、「観音堂先年せう
失。享保年中にこんりう有。五間四面、廻り
窓板、縁らんかん付、くずや（草ぶきの屋根
のこと）。観音馬頭也。八尺斗の白木のあら
けづりの像にして、ずし入。その節開帳にて
拝す。〈中略〉此堂より馬札（馬のお守りの
こと）有る。正五九月十七、十八両日参詣多
し。城下より目付終日行て詰居。家中より
参詣をうし。うり物沢山にあり。茶や大分か
かる。辻ばくち大分ある」と記されており、
馬が農耕や運搬等に大きく貢献していた時代
の信仰と当時の縁日のにぎわいの様子がうか
がえます。

また、本堂前には藩の馬術師範であった都
どりしげなり 鳥重成をはじめ、門人一同の名が刻まれた賽
せんばこ 銭箱が奉納されており、馬の守護神として藩
士が篤く信仰していたことがわかります。





57

いわなてんじんまえいせき 岩名天神前遺跡



この遺跡は、関東地方では最も古い弥生時代の墓の遺跡です。明治大学の杉原莊介博士によって昭和38年（1963）と翌年の2回にわたって発掘調査が行われ、弥生時代の墓が発見されました。墓からは人骨とともに東日本では最古の特徴を持つ弥生土器や管玉などの遺物が出土しました。

調査の結果、人骨は改葬されており、弥生土器は骨を納める容器として使われていたことがわかりました。この調査を契機に、東日本にみられるこのような墓を再葬墓と呼ぶようになります。



58

ナウマン象歯牙化石 ぞうしがかせき

佐倉市飯野字北ノ脇の崖下から昭和11年（1936）に右上第3臼歯1点、門歯1点の化石が出土しました。

ナウマン象は、約30万年前から約3万年前までの間、日本や東アジアに生息していました。最終氷河期にあつて日本列島が大陸と続きであつたころ、大陸から渡来してきたものと考えられています。その名称は、最初に研究したドイツの地質学者ナウマンの名前に由来しています。

近くの印旛村瀬戸で発見されたナウマン象の化石は、自然科学的な方法による年代測定の結果、約3万7000年前に生息していたものと推測されていますので、飯野から出土したこの化石も、おそらく同じ時代に属するものと思われます。

遙か遠いむかし、現在の日光戦場ヶ原と同じ程度の気候であつたと推測される印旛沼周辺の地に、ナウマン象が闊歩していたころを想起させる貴重な資料です。





59

やまのさき 山崎ひょうたん塚古墳 づかこふん



この古墳は、印旛沼を眼下に望む海拔29mの台地縁辺に位置する前方後円墳です。かつては、ひょうたん塚古墳の南側にあった円墳1基（消滅）とともに、夫婦塚と呼ばれていたといえます。

古墳の大きさは現存長37m、後円部径25m、後円部高7.4m、前方部高3mを測ります。前方部の一部が崩落しているため不明瞭ですが、築造時には40mを越す大きな古墳であったと推定されます。

この古墳は、未調査であるため内部施設や副葬品については不明ですが、立地条件や前方部が低く形態が未発達であるという特徴から、古墳時代前期に築造されたものと考えられます。

印旛沼周辺では、同様の時期及び平面形の古墳は非常に少なく、当地方の歴史を考える上で貴重な遺跡です。



60

しょういんじ 勝胤寺

大佐倉にある常胤山勝胤寺は、釈迦如来を本尊とする曹洞宗の寺院です。享禄5年（天文元年、1532）に本佐倉城主千葉勝胤が華翁祖芳和尚を開山として招き創建したと伝えられます。山号は勝胤の法号「常胤」に由来します。

勝胤寺は、千葉氏滅亡後の天正19年（文禄元年、1592）に徳川家康より寺領20石を与えられました。この寺領については検地帳（勝胤寺）に、山門、客殿、祖師堂、方丈、庫裡、衆寮、江湖寮、鐘楼、回廊、地藏堂、鎮守社、秋葉権現社といった境内の建造物の記載があり、かなり大規模な寺域であった様子がわかります。現在でも境内地の広さに往時の面影が窺えます。寺域には中世石塔群があり、この寺の由緒の古さを伝えていきます。





61

しょういんじちゅうせいせきとうぐん 勝胤寺中世石塔群



大佐倉の常 山勝胤寺には中近世に造立された石塔が数多く残されています。戦国時代に造立された石塔は五輪塔と宝篋印塔で、その石材には海隣寺の中世石塔群や長源寺の道誉上人五輪塔と同様、いずれも銚子砂岩が使用されています。

銘文から天正7年(1579)5月4日に死去した本佐倉城主千葉胤富などの菩提を弔ったものであることが知られます。



62

まさかどやまだいみょうじんとりい 将門山大明神鳥居

江戸時代の承応3年(1654)11月に、時の佐倉城主堀田上野介正信により造立された鳥居(華表)です。高さ3.29mの明神鳥居で、貫の左右先端が柱の外側で欠損しています。

この付近一帯は将門山と呼ばれ、戦国時代以来当地には妙見宮(奥ノ宮)、将門山大明神(中ノ宮)、日吉山王社(口ノ宮)等がありました。

承応3年、堀田正信の家臣植松雪齋が新規に将門山大明神を建立し、この神社のため正信が鳥居を造立しました。

以来、平将門の霊を祀る新旧の将門大明神が存在するものになりましたが、享保8年(1723)から延享2年(1745)まで佐倉城主にあった松平乗邑が享保年間に旧社の中ノ宮を修復すると、植松氏建立の新社は廃社となりました。





63

ききょうづかあと 桔梗塚跡



『古今佐倉真佐子』には「此原中大塚一つ有り。芝付てある。桔梗之前がはか也。此原に桔梗一めん有。一本も花さく事なし。此はか印寛永年中に武州上野（寛永寺）御こんりうの節こん本中堂のむなきに成るよしにて、公儀より切、江戸に上る。三十三間ある木御吟味にて外になし。此はか印間にあふゆへ御用木に切。切木口六尺斗の大男あしをつまだて両手をあげしに上の切口にはとゝかざるよし。佐倉にて申伝御用木と云は此の木の事也」と記されています。

昭和53年（1978）2月に保存区域を設定するために確認調査が実施され、古墳であることが明らかとなりました。



64

もとさくらじょうあと 本佐倉城跡

文明16年（1484）頃から天正18年（1590）まで、千葉氏の本拠地とされた城郭です。城の周辺には、城下町も栄えていました。この城跡の大部分は、現在酒々井町に含まれますが、北西部の一部は、佐倉市になっています。その保存状態は良好であり、今でも壮大な土塁や空堀が残されています。

城跡は、曲輪という各々独立した平坦地によって構成されています。本佐倉城跡の場合、10か所ほどの曲輪があり、「城山」「奥ノ山」「倉跡」と呼ばれる3つの曲輪がその中心をなしています。これらの曲輪では、掘立柱建物跡や住時の陶磁器が見つかっています。そして、これらの曲輪を支えるために、「東山」「馬場」「東光寺尾余」「セツテイ山」という曲輪も設置されていました。

また、この周辺には「荒上」「根古屋」と呼ばれる千葉氏家臣の屋敷跡があったと推定される地域や大手門があったといわれる馬出曲輪を持つ「向根古屋」の曲輪もあります。

